「Linux Japanese RPM Project」
– オープンな開発環境を目指して –

1 JRPM

“Linux Japanese RPM Project”通称 JRPM”とは、Red Hat Software で開発された RPM のバイナリ形式である rpm 形式のパッケージの作成／収集を行なうプロジェクトです。日本語関係ソフトウェアや、日本で作成されたソフトウェアを中心に作成／収集を行なっており、TurboLinux や MLD の日本語環境でも利用して頂いております。

rpm 形式である利点を活かして、i386 以外にも alpha,sparc,ppc などのマルチアーキテクチャ対応であり、glibc2 への対応も進められています。

2 今後の方向性

しかし、同様に日本語関係のアプリケーションを集めたパッケージ集である PJE というものがあることは皆さんご存知だと思います。ディストリビューションとして完成度の高い PJE が、きちんとした rpm 形式で、かつ glibc2 対応をされるとなった今、JRPM の方向性が問われているのではないでしょうか。

現在のところ JRPM では「ディストリビューション」を目指すのではなく、「パッケージ群」を目指そうという方法で検討を行なっております。つまり依存性などを考慮し、インストーラーなどの整備を行なう「ディストリビューション」ではなく、何らかの「ディストリビューション」に対する add-on 形式の「パッケージ群」を目指そうというのです。

そうすることにより、従来からの JRPM の開かれた開発環境というものが活かせるのではないでしょうか。「皆でよってたかって rpm 形式を作る、集める」というオープンな開発環境のプロジェクトであり、また、「このソフトの rpm パッケージだけが欲しい」という人にも簡単に利用して頂けるプロジェクトでもあるわけです。ある人は音楽系のソフトウェアを、ある人はゲーム系のソフトウェアを、またある人は TeX 系のソフトウェアをどんどん作って作ったものから公開するということも可能ですし、またあるディストリビューションを作る時に特定のパッケージだけ組み込みたいということも可能なわけです。この際、依存関係, ディレクトリ構成, ファイルの命名方法など、方針だけは決めるようにしておりますが、厳密な物ではありませんので気軽なのです。

さらに、パッケージ方法として rpm 形式を用いていることより、自分のアーキテクチャ用のバイナリパッケージがなくとも、他のアーキテクチャで作成されたものがあった場合、src.rpm をもらってきて rebuild (コマンド 1 つ) するだけで使えるようになることが多くあります。この新しいアーキテクチャ用に rebuild したパッケージを ftp サイトに put し公開して頂くだけで、多くの方が役に立つ物になるのです。

3 参加募集

このプロジェクトに興味を持たれた方は、

<URL:http://www.linux.or.jp/jrpm/>

もしくは

<URL:ftp://ftp.linux.or.jp/pub/RPM/>

を御覧下さい。

本プロジェクトでは、rpm パッケージの作成者だけでなくテスターも募集しております。また上記のように他のアーキテクチャから rebuild して下さる方も募集しております。

皆様の御協力をお待ちしております。

4 謝辞

最後になりましたが、JRPM の発足・維持に対し誠にお世話になっております生越様をはじめとする JLUG の皆様にお礼を申し上げるとともに、今後共、御指導御鞭撻の程頂けますようよろしくお願い致します。

古澤 和久 (FURUSAWA,Kazuhisa)
kazu@linux.or.jp